（第三種郵便物認可）

知って納得 病理外来

進行度や悪性度、丁寧に説明

来春にも「診断科」開設

患者から採取した細胞や組織の標本を顕微鏡で見て、どのような病気か診断する。病理専門医の仕事だ。重要な役割なのに、病理検査の説明は臨床医が担当し、病理医が表に出なかった。この長年の慣習がやっと変革期を迎えた。来春にも病院に病理診断科が設けられる見通しになったからだ。病理医が患者の前に現れる日は近い。

患者の積極性促す効果

東京逓信病院に、病理外来が十月から開設された。病理診断科を先取りした試みだ。田村浩一病理科部長が外来の個室で顕微鏡を操作して、患者の組織画像をカラーモニターに映し出した。

それを患者と一緒に見ながら、正常とどう違うか、進行度や悪性度などを説明していくという。患者の質問や疑問には、そのつど、丁寧に答えることができる。

田村部長は「病理診断は『見た目』の判断が主体。診断名だけでなく、所見が大切だが、その内容が正確に患者に伝えられている保証はない」と病理外来の意義を語る。

百聞は一見にしかず。実際に画像を見ながら、病理医の口から根拠を直接聞くと理解が深まる。

治療の選択や方針に関する相談には、臨床医と一緒に話し合う。また、所見に基づいた「さまざまな可能性の程度」が分かれば、治療方針なども相談しやすくなる。

難しい専門用語は分かりやすく話す。田村部長は「納得医療につながり、患者が治療に積極的になる」と効果を挙げる。

病理外来の効果

- 病気への理解が深まる
- 納得の医療につながる
- 治療に積極的になり得る
- 主治医と別の病理医に相談

（田村浩一東京逓信病院病理科部長による）

約五百ベッドある東京逓信病院では年間約六千件の病理診断をこなす。すべての患者への直接説明はとても無理だ。

しかし、「聞きたい」と要望されれば、説明する病理医は少数だが、いた。それを制度化したのが病理外来である。全国的には日本医大付属病院で二〇〇三年に始まり、呉市の国立病院機構呉医療センター・中国がんセンターでも〇六年に開設された。

完全予約制。一人の患者に三十分―一時間かける。院内の患者が対象。院外の患者にはセカンドオピニオン外来で対応する。今のところ自由診療で料金は一時間二万円程度。家族も同席できる。

病理外来の必要は指摘されながら、手間がかかって収入増にならないため普及していなかった。

病理診断は現在の医療に欠かせない。組織と細胞を合わせて年三千万件近い。この膨大な検査を担う病理医は全国で約二千人。人口当たりで米国の三分の一しかいない。

病院などで「臨床科の一つとして、病理診断科を名乗りたい」というのが日本病理学会の念願だった。今年九月の厚生労働省の医道審議会で正式に認められた。来年四月にも、医療機関で病理診断科が標榜できるようになる見通しだ。

患者らはこの動きを歓迎する。愛知県を中心とした乳がん患者会「わかば会」代表の寺田佐代子さんが十月、患者六十人に緊急アンケートした。

大半が「病理診断について病理医から直接聞きたい」「医療保険が適用される病理外来ができたらいい」と答え、患者の期待を裏付けた。寺田さんは「患者の『知る権利』のためにも、早く病理診断科を実現してほしい」と話している。

疾患

早期発見へ医療連携を

まだ低く、診断が遅れがちになっている事情がうかがえる。

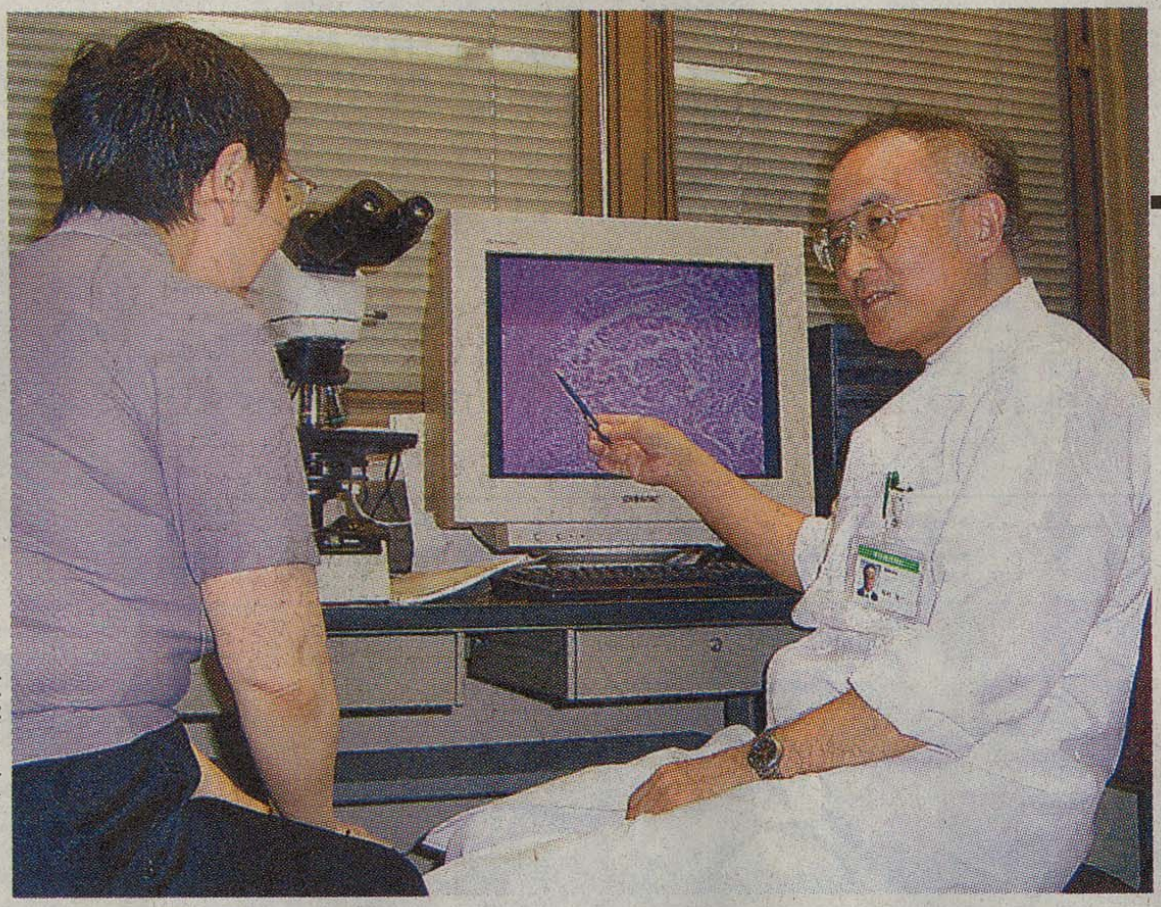
福地客員教授は「COPD

けんこう掲示板

◆**健康づくり教室**　20日午前10時45分―11時45分、広島市東区の広島原爆被爆者療養研究センター神田山荘。おかもと整形外科（東区）の井出善広・理学療法士が骨粗しょう症について講演する。神田山荘の入場料が必要。同センター☎082（225）0955。

◆**公開健康講座**　20日午後2時―3時半、鳥取市の県健康会館。県立中央病院の吉田泰之・循環器科部長が「虚血性心疾患・最近の動向」と題して講演。無料。県医師会☎0857（27）5566。

◆**勉強会「薬物依存からの回復」**　21日午後7時―8時半、広島市東区地域福祉センター。講師は京都府立大准教授でソーシャルワーカーの山野尚美さん。薬物依存症の回復へのプロセスの中で、家族ができること、できないことについて考える。無料。薬物依存を考える広島市民ネットワーク☎090（7597）2647。



病理外来の様子。カラーモニター上の組織画像を示しながら説明する田村病理科部長（東京都千代田区の東京逓信病院）